

労働科学研究所戦前期資料群

——労働科学研究所による戦前から敗戦直後の収集資料群

金子 良事

- 1 資料受け入れの経緯
- 2 資料の全体
- 3 具体的な資料の紹介
- 4 おわりに：今後に向けて

1 資料受け入れの経緯

大原社会問題研究所の内部で「労働科学研究所戦前期資料群」と呼ぶ資料群がある（便宜上、以下では単に労研資料群と呼ぶ）。労研資料群は戦前から敗戦直後、おそらくは占領軍によって一時的に国会図書館に蔵書を接収されていた時期までに収集された資料であると考えられる。内容は多岐にわたっており、戦前の労働科学研究所の活動の守備範囲を表しているとも見ても差し支えないだろう。

労研資料群は、2015年夏に労働科学研究所の移転による図書館閉鎖を機に大原社研に移管されたが、同じように暉峻義等文書も受け入れたにもかかわらず、この資料群にこうした名称が付されるようになったのは幅広い名称でしか呼びようがないほど膨大であったからである。受け入れた時点で段ボール233箱、うち159箱については大原社研内にスペースがないため、学内の他の部署に無理を言って、一時的に別置させてもらっている状態である。

労研資料群に私たちが出会えたのは全く偶然だった。労働科学研究所の書庫の一部にかつて労働科学研究所から独立し、今は閉鎖してしまった海上労働科学研究所の調査ノート類が段ボールで10数箱残されていたのだが⁽¹⁾、北島副所長とその資料群について相談していた折、旧海上労働科学研究所の部屋にまだ資料があることに話が及び、すぐにその場所へ案内していただいたのである。部屋の前に立って驚いた。壁一面の棚にファイルがきれいに整理され、それでも入りきらないものが段ボールに詰められて床や机にうずたかく積み立てられていた。さらに、東日本大震災の影響で一部のファイルは床に散乱しており、そのままになっていた。とても部屋の奥までは行けない状態である。

(1) この資料群は最終的に横浜市史資料室に引き受けていただいた。

労研資料群の所在を知った当日、暉峻義等文書の運び出し作業を一緒にしていた大原社研メンバーの原伸子、榎一江、藤原千沙、立本紘之を呼んでその部屋に行き、一同改めて驚いた。スケジュール的にはこの部屋の資料は、図書館よりも早く処分される予定であったので、その場で処分するのを待ってもらいたいと北島副所長にお願いし、後日私が簡単な資料調査を行った上で、資料担当の榎と、原所長に報告し、その後、所内・学内（資料のスペース確保）の折衝を経て、大原社研に運び込まれることになった。

労働科学研究所が戦時中に大日本産業報国会と深いかかわりを持っていたこと、戦前に既に労働科学を中心とした研究センターとして国内の代表的機関であったことはよく知られており、歴史研究者の間では重要な資料を所蔵していることも知られていた。しかし、今までそうした資料群を閲覧することは出来なかった。事実、戦前の労働史を研究していた榎も私も別々に過去そうした資料を閲覧しようと試みて諦めた経験を偶然、共有していた（こうした経験は、この時期に関心を持つ関東圏の組織に属していた研究者ならば、それほど珍しいことではないだろうと思われる）。

2 資料の全体

労研資料群は個々の研究者の抜刷論文（日本語、ドイツ語が多い）や、個別企業の報告書（労働科学研究所の調査ではなく、個々の企業が自社で行ったものが研究所や暉峻元所長などに謹呈されたもの）、審議会関係で配布された資料などから構成されている。その中に目録がある。記入者の筆跡も様々であることから、おそらくこの目録は資料群の全体を示すためのものではなく、受入目録であると推測される（以下、単に受入目録と呼ぶ）。受入目録はB5の紙に複数記入できるフォーマットで、表頭に「大分類」「小分類」「書架番号」「箱番号」があり、その下から一点ずつ入力されている。一点ずつの項目は「番号」「著者」「論文標題（雑誌巻数年次）」「備考」である。ただし、一部の段ボールを開放して受入目録と現物の照合を行ったところ、欠落しているものもあり、逆に別のファイル・ボックスのものが混入しているものもあった。その他、前述のように東日本大震災で落ちた資料もあるので、今後の資料整理ではその確認作業が重要になるだろう。

また、受入目録とは明らかに異なる別のファイル・ボックス群が段ボール9箱分、存在している。このうち、4箱は上記の「大分類」と同じ形式でまとめられたファイル・ボックス群で、暉峻文庫という判が押されており、抜刷論文や暉峻が委員として参加した審議会の配布資料等で構成されている。残り5箱のうち、2箱は体力関係のファイル群であり、内容からみると、暉峻文庫と関係する可能性もある。後の3箱のうち、1箱は石井雄二元所員の抜刷論文関係であり、もう2箱は分類番号が書かれていないファイル・ボックスが収められている。

現在、大原社研では受入目録の入力作業を行っているが、その際、「小分類」の項目がさらにもう一つ細かく分かれていることがあるため、これを「中分類」と置き換え、もう一段細かい分類を「小分類」とした。この分類項目の全体は文末に示す。ここではまず、大分類だけを見ておこう（表1）。

今、この分類をもとに、新しい研究の可能性のある研究領域を表2のように選んだ。もちろん、これは暫定的なものであって、利用可能性はこれだけにとどまるものではないが、読者の便宜を図

るために参考までに整理したものである。

次に、具体的な資料をいくつか紹介したい。

表 1 労研資料群大分類

1	学会及学術奨励機関	9	体格 体質 体力 性格	17	社会及労働問題
2	自然科学	10	衛生学	18	労働及社会問題
3	生物学	11	建築	19	教育学
4	統計学	12	社会衛生学	20	社会科学
5	医学	13	人口	21	経済
6	生理学	14	病理	22	産業経営
7	栄養	15	心理学	23	農業
8	食品	16	職業		

表 2 労研資料群の利用可能性

労研資料群の大分類	利用可能性のある分野
全般	社会政策（史）
医学，生理学，栄養，食品，体格体質体力性格，衛生学，病理，心理学	医療史，公衆衛生史
建築	建築史
建築，社会衛生学，社会及労働問題	医療史，公衆衛生史，社会事業史
衛生学，建築，社会衛生学，人口，職業，社会及労働問題	都市社会学（史），住宅政策史
農業	農業史，農業経済史
産業経営	経営史，工場管理史，労務管理史
心理学，教育学，職業	教育社会学，教育史
心理学（動作研究），労働及社会問題	労働史

3 具体的な資料の紹介

ここでは任意の二つのファイルから少しの資料を紹介したい。段ボール箱から取り出しやすい位置においてあるもののうち、私とその資料的な意義を説明できるものを選んだ。一つ目のファイルは大ファイル分類項目「16 職業」の中ファイル「5 学校卒業生就職調査」である。写真 1，2 は中ファイルのファイル・ボックスである。写真 3 はこの資料の一部を収録した目録であり、写真 4 はこのファイルの中身を机の上に広げたものである。

このファイル・ボックスには職業紹介関連の審議会に出席したか、あるいはそのときの配布資料を贈呈された資料がまとまって残されている。中央職業紹介所事務局が作成した調査報告書、東京市の調査報告書などが含まれている。ただし、このファイル・ボックスはかなり秩序だった資料が入っており、他のファイルは箱からあふれ出そうなくらい入っているようなもの、あるいは空箱や抜刷論文が一本しか入っていないケースも存在する（床に落ちた雑ファイルのなかに他のものが存在する可能性も否定できない）。

次に紹介するのは大ファイル「22 産業経営」の「1 産業経営」である。このファイル・ボックス

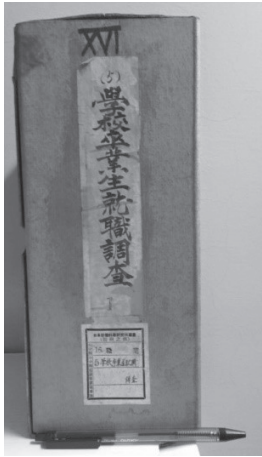


写真 1, 2 学校卒業生就職調査 1: ファイル・ボックス

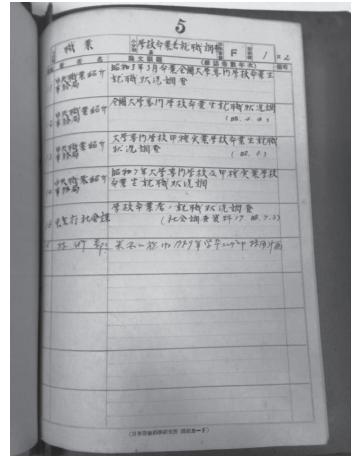


写真 3 学校卒業生就職調査 2: 目録



写真 4 学校卒業生就職調査 3: 現物

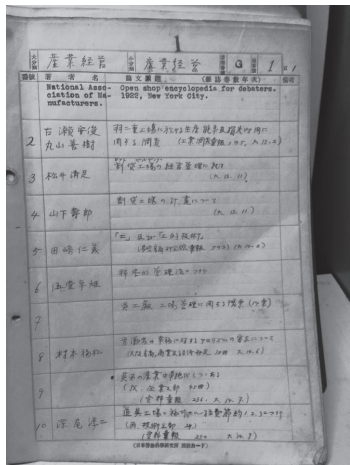


写真 5 「22 産業経営」「1 産業経営」目録

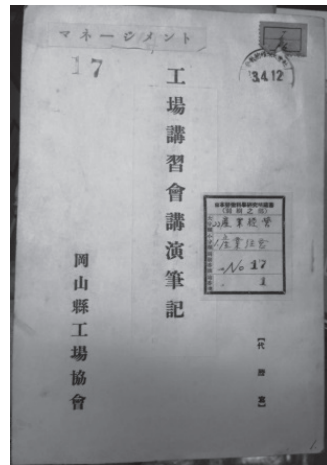


写真 6 岡山県工場協会「工場講習会講演筆記」

には講演記録の抜刷類が多数収められている。この中には「交換」という印があり、刊行物の交換を行っていたのであろう（ちなみに、労働科学研究所と大原社会問題研究所の間ではそれぞれが刊行する雑誌の交換が長年行われてきた）。写真5は受入目録のこの資料が該当する一部を写したものである。

写真5の「6 伍堂卓雄『科学的管理法ニ就テ』」は大正13年4月18、19日大阪市天王寺市民博物館で開催された大阪府産業部主催の能率講演会のための講演要旨である。科学的管理法史研究の中では呉海軍工廠も伍堂卓雄も有名だが、この講演要旨はその科学的管理法の全体像をよく説明している。また、おそらく呉海軍工廠で実際に使われていたであろう帳票が14点もこのボックスのなかにある。

写真6は岡山県工場協会の「工場講習会講演筆記」であり、昭和3年2月8、9日に岡山第一中学校講堂で開催された工場講習会の記録として井上好一（大阪府立産業能率研究所技師）「工場能率増進のための科学的管理法」、山崎元英（大阪府工業懇話会技師大阪府嘱託）「安全衛生」、暉峻義等（倉敷労働科学研究所所長医学博士）「工場衛生及能率増進」の三つの講演を収めている。講演内容として科学的管理、安全衛生、労働科学の3本が組み合わせられていたことも労務管理史研究の文脈で捉えると面白いが、県レベルで工場協会を組織して啓蒙的な講演会を開催していたことや、大阪府の研究所や大阪府工業懇話会に所属する技師が存在したことなどは工場管理史の観点からも興味深い⁽²⁾。

4 おわりに：今後に向けて

労研資料群には、今回紹介したように一つ一つの資料の中にもそれぞれの研究に寄与するようなものがあるのだが、それはあくまでこの資料群の部分的な価値しか語らない。むしろ一つずつの抜刷には他の図書館等で読むことが出来るにしても、これだけ系統だって大量に集まっていることにこそ意義があるといえるだろう。しかし、その意義を具体的に明らかにしていくためには、資料整理を進めて資料の全体を明らかにする以外に道はない。一步一步出来ることを積み重ねていきたい。

(かねこ・りょうじ 法政大学大原社会問題研究所兼任研究員)

(2) 工業協会や工場懇話会は全国に様々な名称があるが、研究史上は工場懇話会として認識されている。その多くは工場法制定を契機に地域（都道府県あるいはその一地域）の工場経営者・管理者の連絡会としてスタートした。工場懇話会の全体像について詳しくは成田一江「工場法施行と愛媛県工場研究会」『九州史学』130、2002年を参照。工場懇話会にはいくつかのパターンがあるが、大阪府工業懇話会の目的は「工業の進歩発展」であり、事業としても最初に「工業上の調査研究」があって次いで「工場法令の研究及実施」等になっている。また、岡山県工場協会の目的は「工場の経営改善、工場能率の向上、福利増進、県産業の発達」、事業は「講演会、講習会開催、印刷物刊行、工場関係者協議会、工場視察」になっており（協調会『本邦工鉦業懇話会概要』1925年、59、77頁）、何れも工場法規よりも工場管理の能率向上に重点が置かれているように推測される。

労働科学研究所戦前資料群のファイル名

大ファイル名	中ファイル名	小ファイル名
1 学会及学術奨励機関	1 決議及議事録 2 研究機関 3 報告 4 文献 5 労研関係 6 雑	
2 自然科学	1 自然科学一般 2 自然科学史 3 星学及地球物理学 4 物理学 5 化学 6 数学 7 地質学及地理学 8 工学 9 海洋学 10 気象学 11 自然災害（地震水害）	
3 生物学	1 生物学一般	
4 統計学	1 統計方法 2 生物統計学総論 3 他二分類セラレザル雑統計	
5 医学	1 医学一般 2 医学史 3 医育	
6 生理学	1 労働生理 2 基礎新陳代謝 3 睡眠 4 筋 5 呼吸 6 内呼吸 7 循環一般 8 心臓 9 血管 10 血圧 11 血液一般 12 血液形能 13 消化呼吸 14 肝臓 15 腎臓 16 脾臓	一般，体力，脈博，博出量，汗，体温，血圧，尿，消化，心臓，習熟と output，呼吸，歩行，血液，ガス代謝，能率と optimumu，疲労，労働時間及休憩 疲労，能率発力，収縮形，化学，物理化学，興奮，神経支配 エレクトロカルディオクロム，刺戟及興奮伝導，塩類，薬剤の心臓に及ぼす作用，脈博数，酸素の消費・仕事量・博出量，大いさ，一般的研究，雑 一般，唾線唾液，口腔，咀嚼，旨腸，腸，腸液，胃，胃液

8	食品	1 米 2 穀類（米ヲ除ク） 3 豆及ソノ製品 4 野菜 5 果実 6 海藻 7 肉及魚 8 乳及其制品 9 嗜好品 10 ビタミン食品 11 食品ノ雑 12 食品加工及貯蔵 13 調理 14 食中毒 15 代用食 16 食品一般 17 水産食糧品	
9	体格 体質 体力 性格	1 人類学及考古学 2 生体測定一般 3 發育 4 体格 5 体力 6 体質 7 身体的適性 8 体育及スポーツ 9 精神衛生及性格 10 遺伝 11 優生学及産兒調節 12 犯罪及行刑衛生 13 指紋 14 血液型 15 保護少年 16 智能ト心理異常 17 性格ト心理異常 18 不具者ノ心身性能 19 傷痍者ノ心身残存能力ト其ノ再教育	
10	衛生学	1 衛生学一般 2 氣象一般 3 氣候生理一般 4 高温環境 5 低温環境 6 高压 7 低压 8 換氣（物理学的研究） 9 換氣（化学的研究） 10 騒音及震動 11 照明一般	

		<ul style="list-style-type: none"> 12 採光 13 人工照明 14 気候療法（高山海洋気候） 15 日光及紫外線 16 空気イオン 17 超音波及短波 18 温泉及沐浴 19 塵芥 20 有害瓦斯 21 衣服 22 防疫 23 加速度 	
11	建築	<ul style="list-style-type: none"> 1 都市問題（衛生社会施設） 2 都市計画 3 一般住宅問題 4 不良住宅問題 5 共同住宅調査 6 住宅政策（住宅行政制度） 7 家賃地代 8 借家争議 9 建築法規 10 建築設備 11 建築材料研究 12 暖房 13 冷房 14 防空，防火，建築問題 15 工場建築 16 住居衛生 17 復旧計画 	
12	社会衛生学	<ul style="list-style-type: none"> 1 社会衛生一般 2 衛生法規 3 医療機関 4 保健組織及保健婦 5 公衆衛生一般 6 都市衛生一般 7 上水 8 下水及清掃 9 消毒及殺菌 10 農村衛生 11 軍陣衛生 12 植民衛生 13 妊産婦保護 14 乳幼児保護 15 児童及青年ノ保護 16 学校衛生一般 17 学童身体検査 18 学童疾病 19 児童聚楽 	

		20 産業衛生一般 21 保険医学 22 公娼・私娼 23 産業衛生	
13	人口	1 一般人口論 2 婚姻及出産 3 死亡 4 乳児死亡 5 人口移動 6 移植民 7 職業配分 8 人口統計論及人口統計 9 産児調節 10 人口静態 11 人口動態	
14	病理	1 病理学一般 2 細菌学一般 3 急性伝染病 4 免疫学, 血清学一般 5 結核(肺・肋膜其他) 6 性病 7 癩 8 寄生虫 9 全身病 10 脚気 11 癰及腫瘍 12 呼吸器病一般 13 血液及循環器疾患 14 神経及精神病 15 内分泌異常 16 消火器疾患 17 中毒一般 18 塵肺鉍肺 19 熱中症 20 潜函病 21 腐蝕 22 職業病一般 23 外傷 24 外傷性神経症 25 凍死・凍傷	チフス, 赤痢, コレラ, ペスト, 痘瘡, 猩紅熱, ゼフテリー, 流行性脳炎, 百日咳, ワイル氏病, マラリヤ, 野兔病, インフルエンザ, 一般 病態生理, 病理解剖, 免疫アレルギー, 結核菌, 体質及体格, 症候学診断学, 予防法, 蔓延及統計, 各論, 治療, 栄養学的研究, 一般 一般, 圓虫, 吸虫, 条虫 神経及精神病一般, 自律神経毒 食餌中毒, 薬物中毒, 阿片中毒, アルコール中毒, 芳香属化合物中毒, 脂肪属化合物中毒, 一酸化炭素中毒, 硫化物中毒, 鉛中毒, 金属中毒, 類金属中毒, 喫煙, ガス中毒, 蛇毒

		<ul style="list-style-type: none"> 26 眼疾患 27 耳鼻咽喉科疾患 28 産婦人科疾患 29 皮膚疾患 30 歯疾及口腔衛生 31 泌尿性器疾患 32 滴支ノ地方病 33 漢薬民間療法 34 従業員保健調査 35 罹病統計 36 レントゲン学 37 雑 	
15	心理学	<ul style="list-style-type: none"> 1 心理学概説 2 感覚知覚 3 感情意志 4 学習習熟 5 作業（元ノ精神作業） 6 性格類型 7 動作研究 8 適性考査 9 災害一般 10 災害統計 11 災害防止 12 産業心理学 13 児童及青年心理学 14 異常者心理学 15 動物心理学 	
16	職業	<ul style="list-style-type: none"> 1 職業一般 2 特殊職業調査 3 職業指導 4 職業紹介 5 学校卒業者就職調査 6 失業 7 転業 	
17	社会及労働問題	<ul style="list-style-type: none"> 1 社会政策 2 労働立法 3 社会保険 4 社会事業 5 貧困痲疾・浮浪其他 6 厚生施設 	
18	労働及社会問題	<ul style="list-style-type: none"> 1 労働統計 2 生計費 3 食料問題 4 労働者状態 5 労働市場 6 日傭労働者 7 労働者組織 8 労働運動 	

		<ul style="list-style-type: none"> 9 労働会議 10 満鮮支労働事情 11 移植民問題 12 婦人及幼少年労働 13 産業報国 14 勤労働員, 労徒動員 	
19	教育学	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育学 2 教育制度 3 教化事業 4 映画 5 言語 	
20	社会科学	<ul style="list-style-type: none"> 1 哲学及社会科学一般 2 経済学 3 社会学 4 法律学・政治学 5 社会経済史 6 社会統計学 	
21	経済	<ul style="list-style-type: none"> 1 世界政治経済 2 東亜問題 3 植民地問題 4 ソヴェト経済事情 5 経済理論 6 経済統計 7 財政 8 金融, 為替 9 貿易, 関税 10 物価問題 11 経済制度 12 資源 13 交通運輸 (船舶を含む) 14 経済復興 15 経済に関するもの, 配給問題 	
22	産業経営	<ul style="list-style-type: none"> 1 産業経営 2 産業合理化 3 労働能率 4 労働賃銀 5 労働時間 6 労働者教育 7 福利施設 8 鉱夫雇用労役規則 9 鉱業 10 工業 11 商業 12 中小商工業 13 会社及工場 14 鉱山福利施設 15 労務管理 16 技術 	

		17	ガス工業	
23	農業	1	農業一般	
		2	農業政策	
		3	気象・耕地・凶作	
		4	農具	
		5	農業労働力	
		6	農業経営	
		7	肥料	
		8	農業経済	農家経済, 農業簿記
		9	米麦雑穀	
		10	蚕	
		11	蔬菜, 園芸, 果樹	
		12	畜産	
		13	副業	
		14	試験場及検査所	
		15	水産及山林	
		16	病虫害	
		17	村	
		18	農村生活	
		19	産業組合	
		20	統計	
		21	開発・開拓	